|  |
| --- |
| 機関誌「非破壊検査」の論文執筆要領著者1\*　　　著者2\*\*\* 所属1（住所）\*\* 所属2（住所）キーワード:English TitleAuthor1\*, Author2\*\* affiliation1\*\* affiliation2Abstract The Society carries out academic investigation and research domestically andinternationally on non-destructive testing, non-destructive inspection, and non-destructiveevaluation in general. Technical papers and commentaries appear in "Non-destructiveInspection" , the journal of JSNDI. This article presents how to write an original papersubmitted to the Journal of JSNDI.Key Words :  |

**1. 緒言**

**1.1 レイアウト，字数**

論文は本サンプルに従った形式で原稿作成をお願いいたします。本文は2段組みとなります。

刷上がり１ページの字数は，タイトルページについては 1,500字であり，中ページ以降については 2,230字である。 したがって，刷上がり３ページの場合の字数は上記を合算 した5,960字となり，刷上がり１ページが増すごとに 2,230 字（中ページ分）増える。

**1.2表題**

論文の表題は簡単で内容を明確に表すものとする。内容

を特定できないような抽象的，一般的な表現は避ける。必

要であれば，副題を付ける。

関連ある幾つかの論文を発表する場合は，第１報，第

２報などとし，各論文ごとにその内容を表す副題を付ける。

**1.3 著者名及び所属機関名**

著者名を連記する場合は，少なくとも１名は会員である ことが必要で，その会員の種別を投稿票に明示する。

**1.3.2 所属機関名**

所属機関名は論文を投稿したときのものではなく，研究 を行ったときのものである。投稿時にそこに属していない ときは，所属機関名の後に（ ）付で現在の所属を記載する。例えば，東京大学工学部（現在，○○○株式会社）， The Faculty of Engineering, The University of Tokyo (Present Address : ○○○Co., Ltd.)など。

**1.4 英文要旨**

論文の目的，方法及び重要な結果などを簡潔，明確に表すようにし，図表は用いない。背景説明や考察は原則として含まれない。語数は 200 語以内にすることが望ましい。 対訳和文は不要である。

**1.5 本文**

記述は簡潔にわかりやすくする。見出しはポイントシス テムで作成する。大見出しは1.，2.，3.，中見出しは1.1，1.2，1.3，小見出しは1.1.1，1.1.2のようにする。更に細分する場合には（1），（2），（3），・・・・のようにする。図，写真，表，脚注及び参考文献の書き方はそれぞれ 3，4.及び5.項を参照されたい。本文の書き出しは「緒言」、まとめは「結言」で章立てする。

**2. 数式**

分数式は文中では a／b，(a＋b)／(c＋d)などのように１ 行で書く。数式行は

 $∇^{2}∅\left(r,t\right)=-{q\left(r,t\right)}/{ε}$　　　　　　　　　　　　　(1)

のように書き，（1），（2）のように通しの式番号を 付ける。 また，文中で式を引用する場合は，「式（1）」の ように書く。

**3. 図，写真，及び表**

図，写真，及び表は過不足のないようにする。同一事項

を図，及び表の両方で表すことは避ける。

図（写真も含める）及び表は，適切な場所にそれぞれ Fig.

1，Fig.2，・・・，Table1，Table2，・・・と通し番号を付けて挿入する。Photo.○は用いず，Fig.○に統一する。本文中の引用も同じとする。 図，写真の説明文については Fig.1 に示すように，それぞれの図, 写真の下部に，表の説明文は Table 1 にしめすように表の上部に記入する。論部の場合図表はすべて英語表記とする。



**Fig.1 Sample of figure**

**Table 1 Densities and velocities**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| Material |  |  |  |
| air |  |  |  |
| water |  |  |  |
| steel |  |  |  |
| aluminum |  |  |  |
| glass |  |  |  |

**4. 脚注**

脚注は文中の右肩に小さく\*1)，\*2），\*3）のように記し，そのページの下段に記載する。

**5. 結言**

参考文献には本文で引用した順番に通し番号を付け，引

用個所の右肩に小さく１）のように記し，本文の末尾にまとめて記載する。なお，図，表又は写真などを引用する場合には，必要に応じて著者自身で著作権所有者の許可を得ておく。 参考文献の記載形式は下記のように行う。なお，著者名は連名者全員を記載する。詳しくは執筆要領を参照されたい。

**参考文献**

1)　伊達和博，島田平八，広瀬俊幸：超音波表面波による高速変形下のJ-Δa曲線の測定，非破壊検査，34(1), pp. 14-21,（1985）

2) H. P. Rossmanith：Dynamic Stress-Intensity Factor Determination from Isopachics, Experimental Mechanics, 79(8), pp. 281-285,（1979）

3) 尾上守夫：日本非破壊検査便覧，日刊工業新聞社，p. 434, （1979）

4) T. Y. Thomas：Plastic Flow and Fracture in Solids,Academic Press, New York, p. 100,（1961）

5)　山田 一，山上喜久男：残留磁気消去方法，特許 昭51-115697（日本）, (1976）